

## ロシアのウクライナ侵略に対する抗議声明

ロシアのプーチン大統領は 2022 年 2 月 24 日、ウクライナへの軍事侵攻を開始しました。

今回のロシアの軍事侵攻は、武力行使禁止を謳った国連憲章第 2 条第 4 項および紛争の平和的解決義務を課している同憲章第 2 条第 3 項に対する明確な違反です。

国際司法裁判所は 3 月 16 日に「ウクライナで起きている広範な人道上の悲劇を深刻に受け止めており、人命が失われ人々が苦しみ続けている状況を深く憂慮している。ロシアによる武力行使は国際法に照らして重大な問題を提起しており、深い懸念を抱く」として、ロシアに対して直ちに軍事行動をやめるよう命じる暫定的な命令を出しました。

加えて今回のロシアの行動は「侵略の定義に関する決議」(国連総会決議 3314、1974 年) 第 3 条(a)および第 5 条でいう侵略の定義にまさに合致するものです。この点についてさらにいえば、ロシア軍が撤退したウクライナ北部キーウ(キエフ)州で 1,222 人の遺体が見つかりました。民間人の殺害は重大な国際人道法違反であり、それはすなわち戦争犯罪です。しかもこの中には子どもも含まれています。決して許されるものではありません。

私たち技術教育研究会は規約第 2 条で会の目的を「憲法、子どもの権利条約の精神に基づいて、国民的立場からひろく技術教育の理論と実際を研究すること」としています。ロシアの侵略行為は、歴史の歯車を力の支配が横行していた 19 世紀的な国際関係に逆戻りさせようとするに等しく、日本国憲法の中心的な原則である平和主義と相容れないことはいうまでもないばかりか、国際連合の集団安全保障の考えとも矛盾します。

また、プーチン大統領はたびたび核兵器の使用をほのめかしています。核兵器は、2021 年に発効した核兵器禁止条約によって、その存在自体が絶対悪です。核兵器の使用は決して許されません。さらに、世界の流れが核兵器の全面禁止に向かっている現在、核共有の可否などは、そもそも議論の俎上に載せるべきですらありません。

私たちは、ロシアのウクライナ侵略という蛮行をいかなる意味でも許容しません。ロシアのウクライナ侵略に厳重に抗議するとともに、ロシアに対して、直ちに軍事行動を停止し、ウクライナから完全かつ無条件に撤退することを強く求めるものです。

2022 年 4 月 16 日

技術教育研究会有志